

福岡県指定有形文化財

木造色定法師坐像

(坐高八・六〇) 興聖寺蔵 宗像大社寄託



色定法師(一一五八〜一二四二)は宗像大社の社僧(神社で仏事を修めた僧侶)で、全ての仏教経典(一切経)を一人で書写しました。裸形の木像に本物の衣を着せて色彩を施した特徴的な造像に宋文化の影響が見受けられます。

重要文化財

色定法師一筆一切経

色定法師が一人で

書写した仏教経典(一切経)です。文治三(一一八七)年、良祐(りょうゆう)と名乗っていた色定が二十九歳で写経をはじめ、七十歳となった安貞元(一一二七)年に完了しました。奥書には、中国人船頭が南宋で印刷された一切経や墨を宗像大社に寄進したことが書かれています。

興聖寺蔵 管理団体/宗像大社



重要文化財

正平二十三年宗像宮年中行事



宗像大社を構成する本社・末社を列挙し、それぞれ一年ごとの神事の名称を書き上げた史料です。正平二十三(一一三六八)年の成立で、当時、本社・末社合わせて五九二回もの神事が行われていたことが分かります。

その他の奉納品

重要文化財

あいかわおじかたしろどうまる 藍韋威肩白胴丸



剣 福岡藩第三代藩主 黒田光之奉納



福岡県指定有形文化財 三十六歌仙図扁額



撮影/藤本健八

戦艦三笠の羅針儀



「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

沖ノ島祭祀の奉献品



奈良三彩小壺の出土状況



奈良三彩有蓋小壺

(胴径六・一〜七・〇cm 一号遺跡出土)

唐三彩の技術をもとに近畿地方で作られた多彩釉陶器で、沖ノ島祭祀と古代国家との関係を証明します。蓋五点、身十二点が見つかっています。大島の御嶽山祭祀遺跡でも同様の奈良三彩が出土しており、沖ノ島露天祭祀との共通性を物語ります。



富寿神宝

(径二・二cm 一号遺跡出土)



撮影/藤本健八

中国の貨幣制度にならない、律令国家が発行した銅銭の一つで、弘仁九（八一八）年に初めて鑄造されました。露天祭祀が九世紀まで行われていたことを証明します。

有孔土器

(二号遺跡出土)

胴の周囲に四〜九箇所の孔を空けた土器で、実用ではなく祭祀のために作られた宗像地域独自の奉獻品です。御嶽山祭祀遺跡からも同様の土器が見つかっています。



宗像大宮司家と対外交流

沖ノ島祭祀終了後も宗像地域の人々によって信仰は受け継がれていきます。宗像大宮司家は、朝鮮半島へ向かう海域における活発な交流により繁栄を極めました。

十六世紀末に大宮司家が滅亡した後は、神職の家系である十二の社家が信仰を守りました。福岡藩主の黒田家も代々の藩主が宗像大社を篤く崇敬し、神社境内の整備や数々の奉納を行っています。宗像大社辺津宮境内にある神宝館には古代祭祀以降の奉獻品の数々も展示されています。

重要文化財

阿弥陀経石

(高一〇六・六cm)



表に阿弥陀仏坐像、裏に阿弥陀経が彫られており、建久六（一一九五）年、大宮司氏国が父の供養のため南宋に求めたものです。

重要文化財

石造狛犬

(阿形)高六〇・〇cm
(叶形)高六〇・三cm



子を抱く阿形、毬を持つ叶形の姿は宋で造られたことを示しています。背銘から建仁元（一一〇一）年に辺津宮の第三宮に奉納されたことが分かれます。奉納の年が明らかで、大宮司家の宋との交流を示す貴重な事例です。

重要文化財

宗像社事書

(三三・六×二二四・七cm)
(長七十七cm)



正和二（一一三二）年、前大宮司氏盛が大宮司を譲ったばかりの幼い子息に申し渡した十三箇条からなる社内法です。鎧・馬の私用の禁止、宗像地域の浦（港）や島、山に対する大宮司家の強力な支配権などが規定されています。一方、「内談」という制度があり、何事も「内談衆」の合議によって議決されることがわかります。

金銅製雛形五弦琴の出土状況



唐三彩長頸瓶片

（口径八・六cm 五号遺跡出土）



東京国立博物館所蔵
Image: TNM Image Archives

白色の素地の上に緑、白、褐色の釉薬が施された唐三彩は、七世紀後半から八世紀中頃に唐でのみ作ることのできた当時の最新技術でした。遣唐使によってもたらされた可能性が高く、中国国外で初めて出土が確認されたものです。



撮影/藤本健八

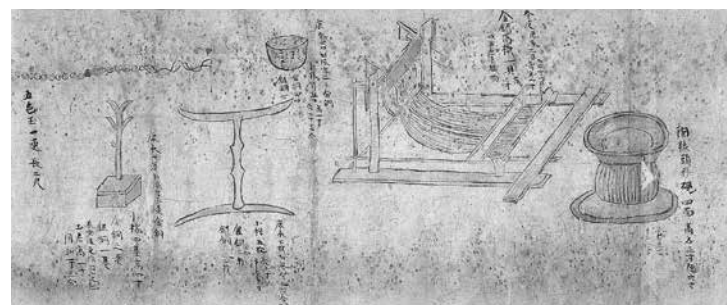
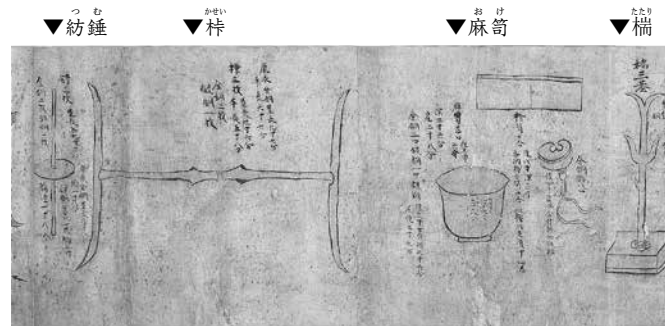
金銅製雛形紡織具

（右端上の櫛…高一三・七cm 五号遺跡出土）



画像提供/島根県立古代出雲歴史博物館 撮影/杉本和樹

櫛（右側上・下段）は糸掛けの用具、I字形の栴（左側下段）は糸を巻き取るための用具、円板の中央に心棒を通した紡錘（中央左）は糸紡ぎの用具、曲物状の麻笥（中央右）は糸をいれておく容器（左側上段）、櫛形の刀杼（中央右）は織機の部品です。これらの紡織具も伊勢神宮の神宝と共通します。



公益財団法人前田育徳会所蔵

たかはた
▲高機

露天祭祀

（八世紀〜九世紀）

一号遺跡の奉獻品出土状況



滑石製形代

形代とは、本物に似せて作った神への奉獻品です。

全国的に祭祀で使われなくなった八世紀以降も宗像では滑石製の形代を捧げる祭祀が行われました。五世紀から六世紀の石製模造品（勾玉などの玉類、鏡、武器など）の系譜を引き継ぎますが、沖ノ島露天祭祀では、律令期の木製の形代と共通する人形・馬形・舟形といった新たな形態が登場します。沖ノ島の滑石製形代は地元の石を用いたと考えられ、御嶽山祭祀遺跡からも、共通する形代が出土しています。



御嶽山祭祀遺跡出土の滑石製品

滑石製人形

（長七・六〜二二・六cm 一号遺跡出土）



撮影/藤本健八

人形は供物として最も重い意味を持つと考えられています。滑石の両側に二箇所ずつ刻みを入れ、頭・胴・足を表し、中には目・鼻・口を表現したものもあります。一号遺跡から六八地点出土しています。

滑石製馬形

（長六・五〜一五・〇cm 一号遺跡出土）



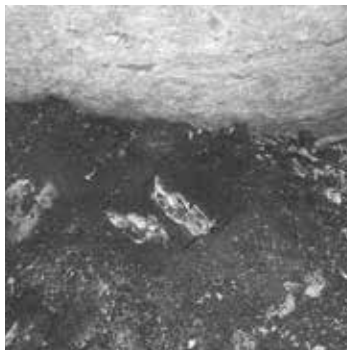
馬は神が降臨する際の乗り物と言われています。横向きの馬の頭部と胴部を表現したもので、足はありません。一号遺跡から四〇点出土しています。

滑石製舟形

（長九・六〜二二・二cm 一号遺跡出土）



舟形は海を支配する神に航海の安全と交流の成就を願った沖ノ島祭祀にふさわしい奉獻品です。滑石製形代の中で最も数が多く、一号遺跡から一〇八地点出土しています。



金銅製龍頭の出土状況

半岩陰・半露天祭祀

(七世紀後半)

(八世紀前半)

龍の頭をかたどった飾り金具で、中国の敦煌莫高窟の壁画にこれと似たものが描かれ、竿の先に付けて唇の孔から天蓋や幡を吊り下げるために用いられている。日本での出土例は他になく、非常に珍しい奉獻品です。



金銅製龍頭 (長一九五、二〇〇cm 五号遺跡出土)

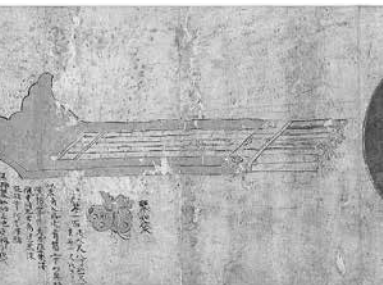
金銅製雛形五弦琴

(長二七一cm 五号遺跡出土)

『延喜式』(十世紀に編纂された法令の施行細目)に記載されている伊勢神宮神宝の「鷄尾琴」と共通し、『神宮神宝図巻』(下図参照)に描かれた伊勢神宮の神宝の琴にも類似しています。



とびの羽のこよ ▼ 鷄尾琴



神宮神宝図巻 応永十七(一四一〇)年に書写された絵図で、伊勢神宮の四十一の神宝が描かれています。沖ノ島祭祀で奉獻された五弦琴や高機、紡織具はここに描かれる神宝と一致します。七世紀の沖ノ島祭祀(岩陰祭祀)半岩陰・半露天祭祀の奉獻品と八世紀以降律令国家によって確立された中央の祭祀(律令祭祀)の状況を表す伊勢神宮の神宝が共通しており、沖ノ島祭祀は律令祭祀の先駆的形態であることを示しています。



沖ノ島祭祀の奉獻品などが展示されています。



沖ノ島を体感できる3Dシアターがあります。

宗像大社神宝館

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331番地 (宗像大社辺津宮境内)
Tel: 0940-62-1311 (代) Fax: 0940-62-1315

拝観料	●大人	500円
	●高・大学生	300円
	●小・中学生	200円
	※幼児は無料。	
	※15名以上は1名につき100円引き	

開館時間 午前9時～午後4時30分(最終入館4時)
※休館日: 年中無休

宗像市郷土文化学習交流館 海の道 むなかた館

〒811-3504 福岡県宗像市深田588番地
Tel: 0940-62-2600 Fax: 0940-62-2601

入館料	無料
	※特別展示の場合は有料となることがあります。

開館時間 午前9時～午後6時
※休館日: 毎週月曜日
(月曜が祝日の場合は翌平日)

アクセス

- 宗像大社辺津宮
JR東郷駅 (西鉄バス) 宗像大社前 (徒歩2分)
- 宗像大社中津宮
JR東郷駅/福岡駅 (西鉄バス) 神湊波止場
神湊港 (乗船) 大島港 (徒歩5分)
- 宗像大社沖津宮遙拝所
JR東郷駅/福岡駅 (西鉄バス) 神湊波止場
神湊港 (乗船) 大島港 (徒歩20分)
- 新原・奴山古墳群
JR福岡駅 (西鉄バス) 奴山口 (練原交差点徒歩10分)

《お問い合わせ》

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議

事務局: 福岡県世界遺産登録推進室

Tel: 092-643-3162 Fax: 092-643-3163

Email: sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp

http://www.okinoshima-heritage.jp

宗像沖ノ島 検索

平成29年の世界文化遺産登録を目指しています

岩陰祭祀

(五世紀後半～七世紀)

八号遺跡の奉獻品出土状況



金製指輪

(内径1.8cm 七号遺跡出土)



純金製の指輪は、正面中央が菱形状になり、その中心には四枚の花弁があしらわれています。朝鮮半島南東部の新羅の王陵出土のものと酷似しており、朝鮮半島からもたらされたことが分かる奉獻品です。

金銅製棘葉形杏葉

(棘葉形：長1.3、四1.5、三0.8
心葉形：長約九.0cm 七号遺跡出土)



鞍から馬の胸部や尻部に伸びる革帯に下げ飾りで、いずれも朝鮮半島からもたらされた奉獻品です。上段の棘葉形杏葉には躍動感あふれる忍冬唐草文、下段の心葉形杏葉には人面に翼を持った鳥人像と唐草文をからませた透かし彫りが施されています。

金銅製歩揺付雲珠

(四本吊手雲珠：高1.0、六0.6cm 七号遺跡出土)



馬の鞍から尻部に伸びた革帯が交差する部分につける飾りで、朝鮮半島からもたらされた奉獻品です。吊手の数で十本、六本、五本、四本の四種に分かれ、十本吊手が最も装飾に富みます。

カットグラス碗片

(長五.六cm 八号遺跡出土)



浮出切り碗

岡山市立オリエント美術館所蔵

出土した二片から復元すると円形浮出文を施したカットグラス碗となります。イランのギーラーン地方、中国からも同様のものが出土しており、ササン朝ペルシアからシルクロードを経て沖ノ島にもたらされたと考えられます。

二十二号遺跡の出土状況



金銅製雛形紡織具(櫛)

(たたり)



糸を掛けるための用具で紡織具の一種です。このような雛形紡織具は、後に律令国家によって確立される祭祀(律令祭祀)で使用さ

れるものですが、岩陰祭祀の終り頃になると、その萌芽がみられるようになります。

四号遺跡



四号遺跡は、巨岩下の洞窟のようになつた場所にあります。中世以降の奉獻品や周辺の祭祀遺跡で採集された奉獻品も再収納されており、通称「御金蔵」と呼ばれ十八世紀末頃にはその存在が知られていました。また、祭祀遺跡の下層に縄文時代の生活遺跡があります。

金銅製高機

(たかはた)

(長四八.0cm 伝四号遺跡出土)



御金蔵(四号遺跡)出土と伝えられる織機の雛形です。非常に精巧な造りで、実際に織ることが出来ます。伊勢神宮の神宝にも共通した高機があります。

岩上祭祀

(四世紀後半～五世紀)

十七号遺跡の奉獻品出土状況



方格規矩鏡

ほうかくきぎょう
(径二七・一cm 十七号遺跡出土)



中央の紐を通す孔(鈕)のまわりに方形の区画(方格)をめぐらせ、その四方にT・L・V形のコンパスと定規(規矩)のような文様を配しています。方格と規矩文の間には鳥が渦巻で表現されています。

内行花文鏡

ないこうかもんぎょう
(径一八・七cm 十七号遺跡出土)



内側に膨らむ弧形を花のように連ねた文様の鏡です。十六号、十七号、十九号遺跡などから合わせて五面出土しています。

鼉龍鏡

だりゅうぎょう
(径二三・七cm 十七号遺跡出土)



中国製の鏡を模倣した仿製鏡です。鼉龍はワニに似た想像上の動物で、鈕の周囲を区画する四個の突起(乳)を鼉龍がめぐっています。

玉類

(勾玉 兼玉) 長一・二～六・三cm (白玉) 径〇・三～〇・八cm (管玉) 長〇・九～八・五cm 十九号遺跡出土



勾玉など多様な形状の玉類が奉獻されました。材質もヒスイ、ガラス、水晶、メノウ、コハク、滑石など多種に及びます。

二十一号遺跡の奉獻品出土状況



獣帯鏡

じゅうたいぎょう
(径一七・六cm 二十一号遺跡出土)



鈕をめぐる「冑子孫」の三字の銘文が見え、七個の乳と龍など七匹の獣文を配しています。中国の六朝時代に後漢形式の鏡が再製作されて、百濟を経て日本へ伝わったと考えられます。

画文帯神獣鏡

がもんたいしんじゅうぎょう
(径二〇・七cm 推定二十一号遺跡出土)



画像提供/東洋文庫

五世紀中葉以降に倭の五王による遣使が中国南朝から入手した可能性が高い鏡です。同形の鏡が津屋崎古墳群の一つ勝浦峯ノ畑古墳から出土しており、沖ノ島祭祀とのつながりがうかがえます。

三角縁神獣鏡

さんかくぶちしんじゅうぎょう
(径二二・二cm 十八号遺跡出土)



神仙や靈獣を配した鏡を神獣鏡といい、そのうち縁の断面が三角形をなすのが三角縁神獣鏡です。魏時代の鏡で、鈕を中心に二体の神像と二体の獣像を対峙させています。

鉄鋌

てつてい
(幅五・〇～六・八cm 二十一号遺跡出土)



鉄の素材となるものです。ヤマト王権が朝鮮へ進出した理由の一つに鉄資源の確保があります。鉄鋌が沖ノ島から出土した事実は、当時の社会においても特に貴重な品を奉獻していることを示しています。

岩上祭祀

十七号遺跡



二十一面もの仿製鏡（中国製の鏡を模倣して日本で作られた鏡）が岩と岩との間に奉獻されたままの状態で見られました。このような多量の鏡が奉獻された祭祀遺跡の事例は、日本で他に知られていません。

二十一号遺跡



岩上の中央部が平坦で、そこに方形状に礫を並べ、中央に大きな石を安置しています。これは神を降臨させるために用いられた祭壇であると考えられます。

奉獻品の変遷



方格規矩鏡



三角縁神獸鏡



鉄剣

岩陰祭祀

七号遺跡・八号遺跡



庇状になつている巨岩の陰の平らな地表面に奉獻品を並べて祭祀を行う段階です。七号遺跡では朝鮮半島からもたらされた金製指輪や数多くの馬具が見つかり、八号遺跡からは同様に馬具やイランで作られたカットグラス碗片が出土しています。

二十二号遺跡



二十二号遺跡は岩陰に平坦面が少なく、すぐ傾斜地となるので、岩陰いっぱい祭壇をつくり、奉獻品を並べて置いています。ミニチュアの機織の道具が奉獻されました。

五号遺跡

半岩陰・半露天祭祀



わずかな岩陰と大部分の露天との両所にまたがって祭祀が行われ、岩陰祭祀から露天祭祀へ移行する過渡期です。金銅製龍頭や唐三彩など中国からもたらされたものや、律令国家が確立した祭祀で使用される奉獻品も供えられるようになります。

一号遺跡

露天祭祀



四段階の最後の段階は、巨岩群から離れた平坦地で祭祀が行われます。東南隅に大石があり、大石に連なつて二〇cm前後の大きさの石で形成された祭壇が見つかっています。奉獻品の出土数は他の祭祀遺跡を圧倒しており、何度も繰り返し祭祀が行われたことを示しています。



金製指輪

馬具



カットグラス碗片



唐三彩

金銅製龍頭

金銅製雛形五弦琴



奈良三彩有蓋小壺

富寿神宝

人形

沖ノ島の古代祭祀

祭祀の変遷

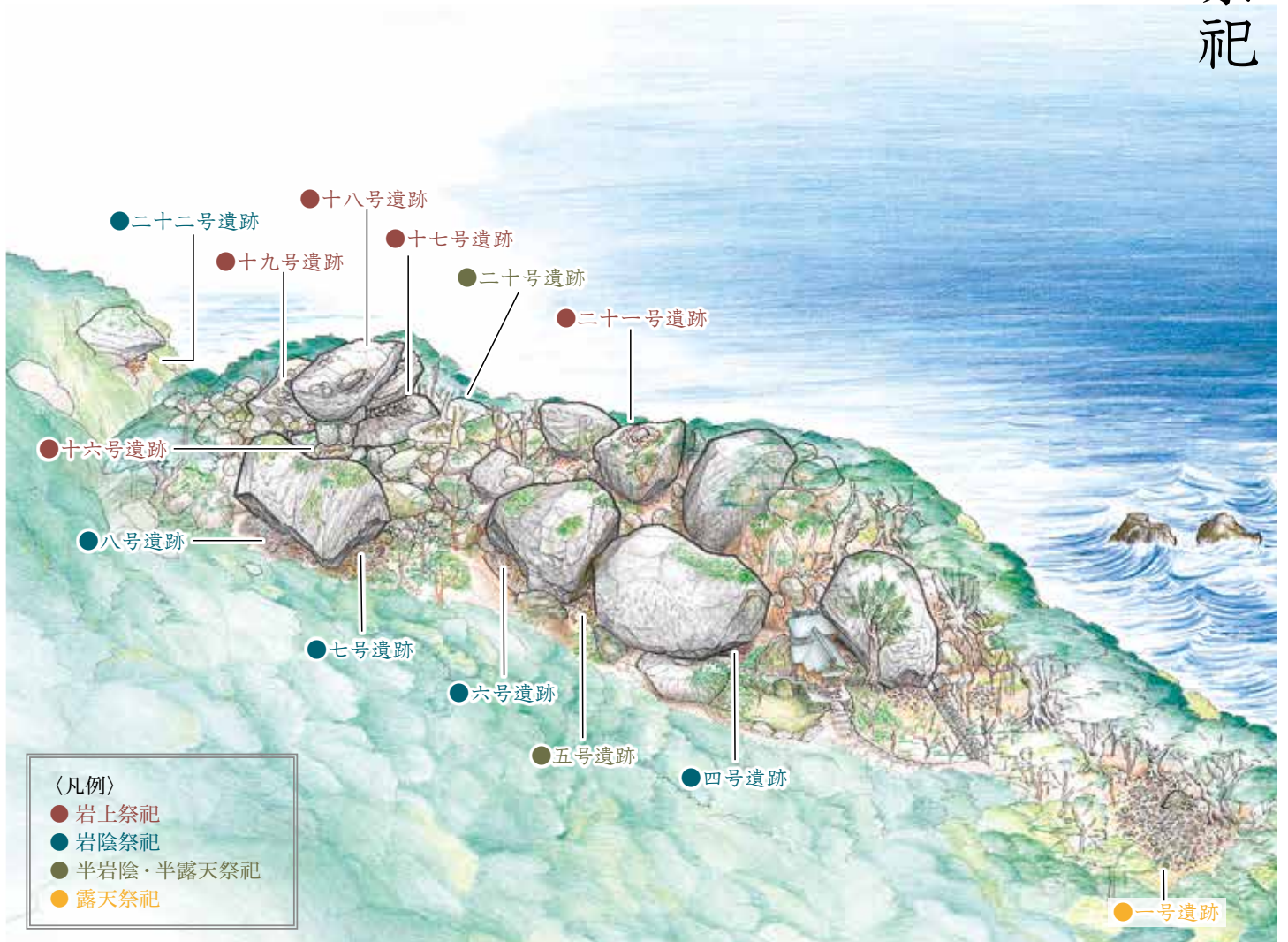
四世紀後半から九世紀末まで営まれた沖ノ島祭祀は、二・三箇所^{がんじょう}の祭祀遺跡が確認されており、五〇〇年の間に岩上祭祀^{いわかみ}—岩陰祭祀^{いわかげ}—半岩陰・半露天祭祀^{はんいわかげ・はんあふてん}—露天祭祀^{あふてん}という四段階の祭祀形態に変わっていったことが明らかになっています。

対外交流の証拠

祭祀で供えられた奉獻品は、調査により出土した約八万点が全て国宝に指定されています。中国大陸や朝鮮半島からもたらされたものを含む質・量ともに他に類を見ない奉獻品の数々は、沖ノ島祭祀が対外交流を背景として行われ、古代国家（ヤマト王権・律令国家）が関与した「国家的祭祀」であることを証明しています。

自然崇拜から 人格神への信仰の成立

岩上祭祀、岩陰祭祀の段階は、岩に超自然的な神を降臨させる、あるいは岩そのものを神とみなす自然崇拜に基づく信仰と考えられています。時代が下がるにつれて、次第に祭祀の場が岩から離れ、露天祭祀の段階までに、宗像三女神という人格神が生まれます。沖ノ島祭祀では、自然崇拜から人格神に対する信仰が成立していく過程をみることができます。



イラスト／北野陽子

奉獻品の特徴

岩上祭祀の奉獻品は、鏡や剣・玉類をはじめとして古墳の副葬品と共通性を持っています。このことから、岩上祭祀は、神に対する祭祀と古墳に葬られる人に対する儀礼とが同じものであった段階を物語っていると考えられています。

岩陰祭祀になると、朝鮮半島からもたらされた奉獻品の量が増加します。ただし、これらの奉獻品も古墳の副葬品と共通するものです。

一方で、岩陰祭祀の終り頃になると、雛形紡織具^{ひながたぼうしぐ}が奉獻され、後に律令国家によって確立される祭祀（律令祭祀）のさきがけとなるかたちが見られるようになります。

半岩陰・半露天祭祀では、伊勢神宮の神宝と共通し、律令祭祀で使用される奉獻品も供えられるようになります。そのため、沖ノ島祭祀は律令国家による祭祀の先駆的形態を示すものと評価されています。半岩陰・半露天祭祀はその重要な画期となる段階です。

露天祭祀ではおびただしい土器類が奉獻され、律令祭祀で使用される祭祀専用の土器であることがわかります。一方で、孔の開いた土器や滑石製の人形・馬形・舟形^{うしなまふねがた}などの形代^{かたしろ}は、宗像地域独自の奉獻品であり、「国家的祭祀」の基礎にある宗像地域の祭祀を反映するものです。

この時期には沖ノ島が『古事記』『日本書紀』に沖津宮として現れ、宗像三女神の一神が鎮座すると記されます。